

研究・調査報告書

報告書番号	担当
2 2	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳) The burden of cancer attributable to alcohol drinking. アルコールによる発がんがんとがん死亡の推計	
執筆者 Boffetta P, Hashibe M, La Vecchia C, Zatonski W, Rehm J.	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Int J Cancer. 2006 Aug 15; 119(4):884-7.	
キーワード アルコール、新生物、疫学	
要 旨 背景 飲酒と関連のあるがんは、口腔、咽頭、食道、肝臓、結腸、直腸、喉頭、そして女性の乳房であり、その発がん物質としての影響は大きい。しかしながらその健康に対する世界的な影響の大きさは明らかにされていない。	
対象と方法 WHO の Global Burden of Disease Project から性、年齢階級別の世界各地の飲酒者の頻度と飲酒量の分布を求めた。飲酒の各がんに対する相対危険度は、口腔、咽頭、食道、肝臓、結腸、直腸、喉頭がんについてはメタアナリシスから (Prev Med 2004; 38: 613-9)、乳がんについては統合研究 (個人ベースのメタアナリシス) から (Br J Cancer 2002; 87: 1234-45) 求めた。また各がんの性、年齢階級別の新規発症者数と死亡数を Grobocan 2002 Project から得て、これらの値を用いて地域別の飲酒のがんへの寄与を算出した。	
結果 全世界で 389100 人のがん患者が飲酒によって発症すると考えられ、すべてのがんの 3.6% を占めると推計された (男性 5.2%、女性 1.7%)。同じく死亡については 232900 人が飲酒によると考えられ、がん死亡の 3.5% を占めると推計された (男性 5.1%、女性 1.3%)。この比率は特に中東欧で高かった (発症への寄与は約 9%)。女性ではアルコール関連がんの発症の 60% を乳がんが占めていた (死亡では 44%)。地域別のアルコール関連がんの発症が最も多いのは西太平洋 B (中国を含む人口の多い地域; 日本は含まない) であった (104300 人)。	
結論 本研結果は単純な推計から得られたものであるが、飲酒の全世界的な健康影響を示している。特に飲酒に対する公衆衛生的な対策を考える際には考慮されるべきである。	